

私 の 工 夫

国語科の教科指導における ICT 活用について

玉野市立宇野中学校
教諭 中島 啓輔



1 はじめに

GIGAスクール構想のもと、「令和の学びのスタンダード」として、高速大容量の校内通信ネットワークとともに一人一台端末が整備され、次は、どのように子どもたちの「学び」へ活用させるかが求められている。私はこれまで、国語科の授業において、このICT機器を活用した有効な指導法を模索してきた。はじめの頃は、情報検索やスライド作成など、目に見える情報を探したりまとめたりする（STAGE1）活用の仕方がほとんどであった。しかし、昨年度から授業改革推進員の先生にご助言をいただきながら、情報と

情報のつながりや論理の展開など、目に見えない関係を捉え、可視化して学びを深める（STAGE2）活用を研究してきた。今回は、国語科における一人一台端末を活用した実践を紹介したい。

2 実践①「意見文を書く」（書くこと）

意見と根拠とのつながりを意識しながら自分の考えを伝える文章を書く力を身に付けさせるために、一人一台端末を活用した。単元のはじめに、意見と根拠のつながりについて学習し、自分の書く意見文のテーマと大まかな

主張を決めた後、「ロイロノート」を用いて次のように授業をした。**〔活動①〕** (1)主張したい意見の根拠となる具体的な体験、(2)そこから感じたことや学び、(3)それらを通じて考えた意見をピラミッドチャートにまとめる活動を行った（図1）。

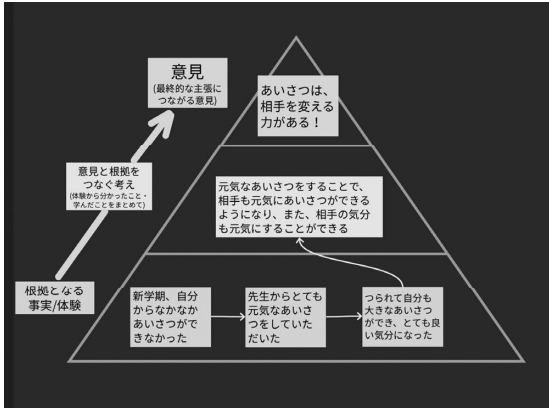


図1

〔活動②〕 各自がまとめた複数のピラミッドチャートを、そのままクラゲチャートに入れ、それぞれのピラミッドの頂点（＝体験を根拠とした意見）をつなげて、まとめの文を考えたり全体を通して訴

えたい主張を練り直したりする活動を行った（図2）。

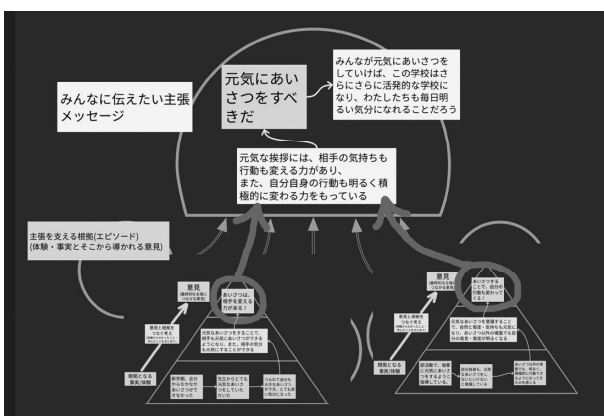


図2

〔活動③〕 シンキングツールを切り替え、「活動①②」で作ったカードを再利用して構成表を作った（図3）。

〔活動①②〕 では、根拠となる具体的な体験から主張したい意見までのつながりを可視化することで、主張を支える根拠となる事例の適切さを考えたり、根拠から意見までのつながりを確かめたりすることができた。

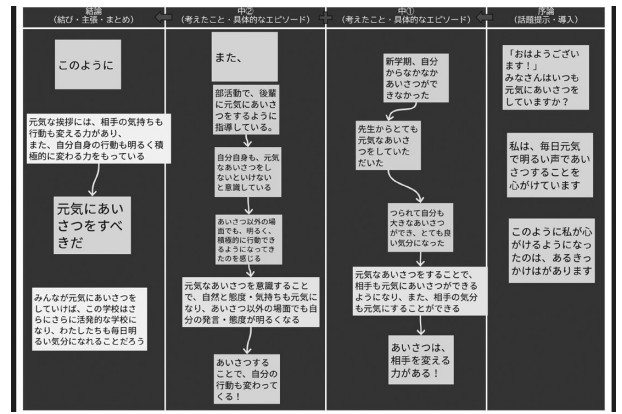


図3

さらに、「活動③」では、シンキングツールを構成表に切り替え、読み手の立場に立って文章の構成を整えることができた。

このように一人一台端末により、複数のシンキングツールを活用しながら文章の構成表を作成することで、意見と根拠のつながりを視覚的に確かめ、評価・改善を繰り返しながら最適化した文章を書くことができたと考える。

また、一人一台端末を用いることで、書いた内容の修正が紙上で

の作業に比べて容易となり、学習活動への主体性を高めることにつながったのではないかと考える。

3 実践②「筆者の論の展開を捉える」(読むこと)

「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ(中学校1年生国語)を題材とした学習において、筆者が仮説を検証して考察を述べている部分の整理を「ロイロノート」を用いてまとめた。

「活動①」仮説の検証の観点を設定し、それぞれの内容を表にまとめた(図4)。

「活動②」シンキングツールを切り替え、それぞれの考察がどのような事実を支えられているのかをピラミッドチャート上にまとめた(図5)。

これらの活動によって、筆者の考察や解釈が、実験の結果(事実)に支えられていることを可視化することで理解を深めることができ

問題点	考察	実験結果	実験の方法	実験の目的・仮説
シジュウカラという鳴き声は、もしかしたら地面や屋根を確認するといった音情報も含まれている可能性がある。	シジュウカラが「ジャージャー」という鳴き声を聞いた地面を確認していくことは、蛇の居場所を突き止める上で、大いに役立つ。	「ジャージャー」という鳴き声を聞く音源は、明らかに異なる様子を見た。でも、カラスや蛇を警戒するときは「ピーーツ」という鳴き声を聞かせても、これらの行動は見られず音を左右に振り、周囲を警戒するだけだった。	①実験方法 あらかじめシジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声を録音してシジュウカラにスピーカーで流して聞かせてシジュウカラの行動の変化を観察する。	「ジャージャー」という鳴き声から、蛇を警戒しているのなのか、恐怖心からの鳴き声なのかを区別が目的。「ジャージャー」が蛇を意味するならば、シジュウカラは蛇を警戒するような仕草をするだろうかという仮説。
	シジュウカラは「ジャージャー」という鳴き声から、蛇をイメージし、小枝を蛇と間違えたと考えられる。	「ジャージャー」という鳴き声を聞いたシジュウカラは、蛇のように動く小枝に近づき確認することがあった。でも、「ジャージャー」以外の鳴き声を聞いた小枝に近づいて確認するシジュウカラはほとんどなかった。また、「ジャージャー」という鳴き声を聞かせながら小枝を流してヘビが幹をはい上がるように小枝を動かす	② 20センチメートルほどの長さの小枝を1本用意し、木に沿うように下げる。それからスピーカーでシジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声を流してヘビが幹をはい上がるように小枝を動かす。	シジュウカラが「ジャージャー」という鳴き声で、実際に蛇をイメージしているかを確かめるのが目的。蛇を「ジャージャー」でイメージしているならば、枝でも、一本本物の蛇と間違えてしまうだろうかという仮説。

図4

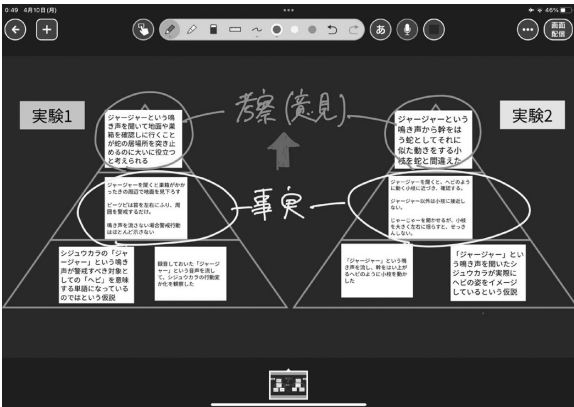


図5

4 おわりに

た。さらに、筆者の意見における説得力の要因を、ピラミッドチャートを活用し、事実に基づく論の展開に着目して説明する生徒が見られた。

国語科の指導において、目に見える言葉だけでなく、言葉の連なりが作り出す論理の展開、情報と情報のつながりなどを捉えさせることを通じて、考えを深めさせることは非常に重要なことであるが容易ではない。その打開策として、今回紹介した一人一台端末によるシンキングツールの活用は、目には見えない論理や関係を可視化することで、生徒はそれを捉え、思考し、考えを深めることができる有効な手立てだと考える。これからも、この充実したICT環境を最大限に活用しながら、生徒の学びの深化を目指した授業を追究していきたい。